

前田之書 まへだのしよ 歌人。明治十八年七月、千七百神奈川縣生れ、昭和二十六年四月、千自殺（八三二一九五）。本名洋造。別號暮生。あやひ 中教中學校中退。明治二十八年尾上紫舟等の連前草社に加入。翌年白百合を興し、四十四年機關誌『詩歌』を創刊主宰。大正十二年『日光』創刊に参劃。昭和四年口語自由律に移行し、十八年定型的復した。妻繁子（筆名狭山信乃）、長男透、共に歌人として著名。

著書『收穫』（増補再版・明治四十二年十月、千白東雲堂）、『陰影』

（大正元年九月千五百白社）、『發

生』白百合社歌集・第一集』（編、大

正四年二月、千五百白社）、『雪

蹤集』（大正四年四月、千二百植竹

書院『現代和歌選集叢書』（『前

田之書集』（大正四年九月、千白新

潮社『現代和歌選集』（『前田之書』（大正四年十一月五日持精詩

社『傑作歌選』（新歌集『深林』（大正五年九月十日白百合社出版

部）、『短歌雜誌』（大正五年十月、千白白社出版部『短歌講義叢

書』（『前田之書選集』（若山牧水選、大正十年六月十日ヤルヌ

「ヤルヌ名歌選」（佐藤南花歌集『密歌』）』（編、大正十二年八月

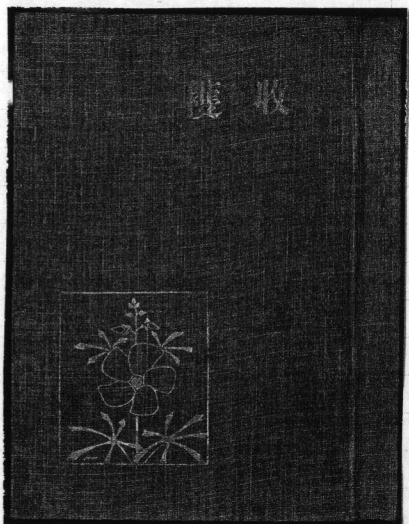
月五日關根書店）、『大正十二年版年刊歌集』（二年度）』（共編、大正十二年

年十一月一日關根書店）、『現代文章作法講話』（合

著・大日本文學會編、大正十二年十一月、千五百國

民教育普及會）、『綠草心理』（大正十四年一月一

日ヤルヌ）、『短歌作法』（大正十四年二月五日松



陽堂「文藝及思想講話叢書」()、^{自選}歌集「原生林」(大正十四年十月二

日改造社「第一次代表短歌叢書」、再刊・昭和四年七月二十一日「改

造文庫」()、詩文集「烟れる田園」(大正十五年六月十日夕又入)、

歌集「虹」(昭和二年二月二十日紅玉堂書店「新歌集叢書」()、^{可雪}

と野菜」(昭和四年二月二十五日白鳥社)、散文集「朝、青く描く」

(昭和六年八月十五日帝書房「詩歌叢書」()、^{可雪}詩歌年刊歌集(第

一輯)・一九三二年版」(前田洋二名、編、昭和七年二月二十五日白

鳥社「詩歌叢書」()、歌集「注くる白心」(昭和十一年五月十五日春

陽堂書店「春陽堂文庫」()、^{可雪}作歌入門」(合著・山本三生編、昭和

十一年五月二十日改造社「短歌作法講座」()、^{可雪}年刊歌集「新短歌・一

九二七年」(合著・新短歌クラブ編、昭和十一年十一月十日第一書

房)、^{可雪}前田文書稿」(昭和十一年十一月二十日第一書房「短歌文學

全集」()、^{可雪}文集「顯花植物」(昭和十一年十一月二十五日京都・人

文書院)、^{可雪}好白紀行一旅の隨筆集」(合著・大草實編、昭和十二年

四月二十五日矢の倉書店)、^{可雪}新選前田文書集」(昭和十五年八月一

日新潮社「新潮文庫」()、^{可雪}詩歌作品・第一輯」(編、昭和十五年十

月十五日白鳥社「詩歌叢書」()、^{可雪}歌集「死風」(昭和十八年二月一日

鬼澤書店)、^{可雪}青天祭」(昭和十八年二月二十日明治美術研究所)、

「富七子と歌」(昭和十八年十一月十五日明治美術研究所)、^{可雪}歌集「耕

土」(昭和二十一年七月一日新紀元社)、^{可雪}前田文書集」(昭和二十

二年十一月二十日新入社「現代短歌文學選集」()、^{可雪}白秋狂慕」(昭

和二十二年二月十日健文社)、^{可雪}日本詩人全集・6 (若山秋水・窪田

空徳)『^{木俣}久保田正文編、昭和四十二年二月十日新潮社)等。